第3章

比較分析

中学生、小学生との比較からみた高校生の学習行動と意識

はじめに

第1章と第2章では、高校生の学習行動と意識について、高校生内部での多様性や属性別の特性を探ってきた。このセクションでは、小学生、中学生との比較によって高校生の特徴を浮き彫りにしたい。今回の学習基本調査の特徴の1つは、こうした学校段階別の比較分析が可能になっているところにある。

比較分析のために作成したのが章末付表である。表には、高校生、中学生、小学生の全体数値を示した。高校生とひと口にいっても、もちろん多様な生徒たちが含まれており、その学習行動や意識はさまざまである。中学生、小学生についても同様である。しかし今回の分析では、学校段階による学習行動と学習に対する意識の相違を大まかに比較することを主眼に据えて、全体の数値のみ考察の対象とすることにした。

なお、以下の点に留意してほしい。

①ここで行うのは、高校生、中学生、小学生の比較分析であるが、厳密な意味で各々が全国サンプルになっているとはいいがたい（中学生、小学生調査の対象者の概要についてはP.10を参照）。とりわけ高校生については、調査実施上の制約から、公立普通科高校のみを対象校としていることに注意が必要である。

②調査票は、できるだけ小・中・高の比較が可能なように設計した。しかし、学校段階による学習行動の相違や、また回答能力の差異から、必ずしもすべての設問について比較が可能なわけではない。とくに小学生については、この意味での制約が多く、中・高との比較が可能な設問は、相対的に少なくなっている。

※中学生、小学生調査の結果については『研究所報』Vol. 4として1991年3月に刊行した。